

北区民まちづくり会議 摘録(平成28年3月8日(火) 午後6時30分～8時10分)

【開会】

○事務局

会議を公開（発言要旨を北区役所ホームページに掲載）することを説明

【区長挨拶】

・年度末のお忙しい中、お集まりいただき、御礼申し上げます。

・北区民まちづくり会議の委員の皆様には、昨年度から部会などを重ね、北区基本計画の今後5年間に優先して取り組むべき重要な事柄について、熱心に議論を重ねていただき、様々な御意見や御提案を頂戴した。また、「北区民つながるプログラム」(案)についての意見募集においても、御協力をいただいた。御礼申し上げます。

・本日は、区民の皆さまから頂戴した御意見や御提案を参考に、「北区民つながるプログラム」(案)を修正したので、事務局からご説明させていただく。このように、北区を愛する区民の皆さまの熱い思いを形にすることができ、大変嬉しく思っている。区役所としても、「また行きたい」「暮らしたい」「住み続けたい」と実感していただけるまちづくりを、皆さまとともに進めていきたい。

・資料3の「つながるプログラム」12ページに「まちづくりの情報が集まる場所」として、NPO法人コミュニティラジオ京都 ラジオミックス京都が上がっているが、本日、大阪の総務省で予備免許をもらったところである。87メガヘルツと決まった。4月末には予備放送、5月末には本放送の予定である。これも皆様の御協力のお陰である。

・今期の委員の皆さまにお集まりいただき「北区民まちづくり会議」は、本日が最後になる。振り返ると、平成26年から、このプログラムを策定するために、度重なる会議や部会において貴重な御意見を頂戴したり、アンケート調査や意見募集にも御協力いただいた。恐縮している。また、今年度は北区制60周年ということで、北区制60周年記念事業準備会や実行委員会のメンバーとして、記念事業について御協力をいただいたところである。委員の皆さまの多大な御尽力に敬意を表するとともに、厚く御礼を申し上げます。本日までお集まりいただくのは最後となるが、今後とともに北区のまちづくりを進めていただきたいと思うので、御協力をお願いします。

【議事】

○事務局

ここからは、座長の市川先生に議事進行をお願いしたい。

○市川座長

今日で最後ということだが、いつもと同じように議事進行をさせていただくのでよろしく願います。次第に従い、議事を進行する。まず、「北区基本計画－これから5年間のまちづくり－北区民つながるプログラム」の素案について、事務局から報告をお願いします。

○事務局

「北区基本計画－これから5年間のまちづくり－北区民つながるプログラム（案）」については、前回のまちづくり会議で、「今後の5年間のまちづくり」の御承認をもとに、今回は原案として取りまとめ御提示するものである。1月に実施した意見募集の結果と案の修正について御説明させていただく。

<資料1, 資料2, 資料3に基づき説明>

○市川座長

ただいまの御説明について、御意見・御質問がありましたら、願います。「Link 北区」というフレーズにも御意見があれば、御発言をお願いします。

○志藤副座長

ひとつは、意見募集の中であった「大学生と小学生の交流の場の場をつくる人」という御意見に対し、原案では「関係を仲介する人」という言い方をしていることについて、一般的にはコーディネーターという言葉を使うと思うがこのような言葉にしたのは、何か議論があったのか。もうひとつは、「Link 北区」は非常によいと思う。「Think 北区」と同じようにわくわくする言葉で北区の活動を表現する流れがありいい感じだ。せっかく60周年記念事業で使った「Think 北区」が「つながるプログラム」の中でもどこかにあれば、発展したということが分かりやすいと思う。

○事務局

「関係を仲介する人」については、特に議論はなかった。カタカナではなくなるべく平易な言葉でということとこのような表現にしている。「コーディネーター」の方が分かりやすいということであれば、そのようにしたい。

○志藤副座長

「コーディネーター」という言葉の方が良いという意味ではない。「関係を仲介する人」という言葉の方が分かりやすい。あえてそうされた理由があるのなら、聞きたいと思ったのである。修正いただく必要はない。

○事務局

もう一点御指摘いただいた「Think 北区」「Link 北区」については、「think 北区」から

「Link 北区」の流れについて、「プログラム」の「はじめに」などで触れたいと思う。

○区長

今の御指摘だが、プログラム冊子の中の私のあいさつでも「Link 北区」について書き、60周年についても記述している。文章の中でどこかで触れさせていただきたいと思う。

○宗本副座長

「Think」から「Link」の流れはいい。冊子の策定経過の中で見える箇所、示したらよいと思う。

○事務局

検討させていただきたい。

○委員

P10において、地域の「現状」に「一人暮らし高齢者世帯の増加など地域の在り方が変化したことで、地域コミュニティの活動の担い手が不足して活動が衰退し、地域のつながりが希薄化」とある。そのとおりであると思う。それに対し「目標」には、「学生や若者、子育て世代や定年を迎えたシニア世代などが、地域活動や組織に参加することで子どもや高齢者の見守り活動、防犯防災の取組などが充実した、安心安全で暮らしやすいまち」とある。具体的にこんなことができていところがあるのか。組織の担い手がないことが大きな課題である。私自身、会議の欠席があり、今までの経過に関わっていないこともあるが、現場において地域で役をしているとこんなことが本当にできるのかなと思う。町内会に入らないということが現実的におこっている。町内会に入るけど、役はしないと条件つきで入る方もいる。このようなことができている学区・事例があれば、教えてもらいたい。

○事務局

事務局からのお願いだが、地域から出ていただいている委員から、もし、御意見など何かあれば伺いたい。

○委員

地域にとっては切実な問題である。ただ悲観的になっても仕方がない。仕掛け作りを地域でしていかないとだめだと思っている。私の地域でも、定年になった人に集まってもらうにしても、「集まっておもしろい」と思わせることが必要である。地域活動は「おもしろい」ということを見せないといけないという気がしている。なかなか一緒にしてくれる人はいないかもしれないが、強制ではなく、「時間のあるときに参加してほしい」という言い方をし、おもしろいことをすると、個人の中で優先順位が上がる。地域活動は、仕事や趣味がある中で優先順位が下である。その優先順位を上げることが地域の課題であると思っている。地域のみなさんがそれを考えて取り組むと、ここで書いてあることもできるのではないか。

現状でできている地域はないかもしれないが、このような高い目標を置いていきたいと思った。

○委員

私の学区では各種団体が18あり、その上に社会福祉協議会がある。各種団体の長が集まって、社協の会長を決める。一番使い勝手がよいのは町内会だが、役員は一年で代わる。なかなか呼び込めない。今は、PTAのお母さんもお仕事されていて、なかなか引き込めない。組織が高齢化し新しい若い力が入ってきていないのが、今の地域の現状である。なんとか打破したいと思っている。

○委員

一年で町内会長が変わるということについて、以前は困ったと思っていたが、今は一年で交代してもらうのも良いと思っている。会長を一年していただき、「こんなこともやっていたんだ」と地域のことを知ってもらい、「一年でやめるのが残念だ。」と言ってもらおう。そういう人たちを一本釣りして、団体に入ってもらおう。新しい人にどんどん入ってもらおう。そういう意味ではその方がよいかと思う。校長先生を説得して、PTAと地域で一緒に活動してだんだん地域を知り、参加してもらおうと、地域にも入ってもらえる。

○区長

PTAのお話が出たが、12月と2月に、区内小学校のPTA会長と校長先生に集まっていただきワークショップをした。1回目は半分くらいの参加だったが、2回目は14名ほどPTA会長に出していただき、校長先生も参加いただいた。林会長のお話のように、PTAの方に活動に加わっていただくという地域のニーズがあるなど考えている。高奥会長のように参加するには、楽しく、おもしろくが大事だと考えている。PTA会長たちも地域に感謝されていた。感謝の思いが地域の会長さん方の思いとうまくマッチングすればいいと思う。まずは、PTAや子育て世代に参加していただけるような区役所の事業やイベントを来年度していきたい。今、PTA会長さんと議論を重ねている。しばらくしてから、それはひよっとすると2年や3年になるかもしれないが、地域にお返しをさせていただきたいと思う。

○市川座長

他に御意見は。

○委員

PTA出身者である。楽しい活動であることが地域活動にとって大切だと実感した。昨年の地蔵盆で、「おやじの会」でイベントをした。LINEでグループをつくり、声かけをした。思いのほか、多くの参加があった。今まで知らなかった赤ちゃんを連れて来た方とも知り合い、本当にたくさんの方に参加いただき、つながったと思う。町内の中で、若い人たちががんばってもらえると思う。私はPTAを5年間させていただいた後に、学区に交通安全

対策協議会会長をしている。PTAをやめるときに社協の会長に「やれ」といわれたが、この役目を果たすことでより地域を知ることができ、PTA活動を通じて地域の方と仲良くなれてよかったなと思っている。昨日、「北区おやじの会」が発足した。楽しいイベントをして地域の活性化につなげたいと話をしている。PTA活動は終わってしまうが、おやじの会は、OBでも現役でも参加できる。紫野学区のおやじの会も昨日参加されていた。つながっていきたいと思っている。

○市川座長

他にはないか。

○委員

学区の空き家委員会の委員長をしている。空き家解消を目指し、色んな活動をしている。今まで社会福祉協議会として「空き家対策をしませんか」という声かけをしていた。昨年から京都市が入ってくれた。学区社会福祉協議会と京都市で連名でお願いすることになり、空き家がちょっと動き出してきた。京都市の名前で信用度が上がったのかなと思っている。区役所がどういう形で地域活動に関わっていただけるかということ伺いたい。このプログラムを作ったから「各学区でやりなさい」というのではなく、一緒にやってもらいたい。常に相談したいという事例が出てくる。気軽に相談できる窓口があればなお良いと思う。よろしくお願ひしたい。

○区長

プログラムの中で、8ページに空き家問題を挙げている。また、10ページの「地域コミュニティとつながる」の中で、「18 学区ビジョンの策定」を挙げている。色んな世代に地域活動に関わっていただくきっかけとして、「学区ビジョン」と硬い言い方をしているが、楽しく集まっていただく仕組みである。色んな方に参加いただき、「どんな地域にしたいか」ということを話し合ってもらいたい。その中で空き家対策にもお話いただきたいと思っている。また、京都市では「区政のあり方」を議論しており、3月には、京都市の方針を出させていただく。区役所機能については、証明書発行や届出を受けるというところから、「まちづくり」ということに力点をおくという目標を掲げていく。既に進めているものとしては、いわゆる「ゴミ屋敷」については、主体的に区役所が関わり持って、地域の社会福祉協議会のみなさんや民生委員さん、地域の方などの御協力をいただきながら進めている。空き家対策については、先ほどおっしゃったように、現在、本庁の都市計画局がスタッフを持ち進めている。区役所としては、例えば学区としてビジョンを作っていただけるということであれば、区としての支えも必要であると思う。区役所は今でも地域に関わっているが、この何年間の中でまちづくりにシフトしていくことになる。今おっしゃっている課題も、区役所が直接関わり担っていくことになるかと思う。業務を担う人材の問題もあり少し時間はかかるが、北区としては、「つながるプログラム」の中の「学区ビジョンづくり」の中で関わらせてもらえればなあと考えているので、よろしくお願ひする。

○谷口副座長

今のお話で、区役所がまちづくりに関わりを持つということであれしく思っている。まちづくりについては、市役所本庁でというのが従来のあり方だったと思う。政令市の中で、区の持つ機能を身近な施策として進める必要がある。このプログラムは、非常にうまくできていると思う。更に思うのは、大学と地域のつながりが大きな問題となっており、大学でも地域貢献が大きな課題である。そのような状況において、これをどのように生かしていくかということが次の問題になろうかと思う。私も大学に持って帰り、大学でも発言していこうと思っている。具体的な施策や公共的な地域の課題が分かりやすく明解にうまく示されている。大学に持って帰り、大学の中で北区の今後5年間のまちづくりとしてこのようなプログラムがあるということを知りたい。また、学生に身近に具体的に知らせる機会を、大学と区役所が連携してつくるのが大切だと思う。例えば、大学の連携部署に区役所が来られて話をするというようなこともいい。せっかく作ったものであるから大学の力も使い、これを生かしきりたい。大学において、区役所が語るというようなことも実施したらどうかと思う。

○区長

本日の午前中に開催した大学の包括連携協議会や課長級の担当者会議でも、「北区民つながるプログラム」については、ご報告をさせていただいている。我々職員が大学の中で学生さんなどにお話をする機会もあるので、このプログラムをテーマにさせていただくこともやっていきたい。このプログラムについては完成したら、大学の事務担当部署にもお送りさせていただくつもりである。

○市川座長

いままでの委員の御意見を聞いて、事務局はどうか

○事務局

色々と頂戴した御意見をどのように反映させていただくかということについては、市川座長とご相談させていただき、最終的にプログラムとしてまとめさせていただきたい。

○市川座長

委員の皆さん、いかがか。異議がないようなら、事務局と私が相談のうえ、最終的にまとめさせていただきたいと思うが、よろしいか。

<異議なし>

○市川座長

それではそのようにさせていただく。その他「今後のまちづくり組織について」、事務局から御説明をさせていただきたい。

○事務局

「今後のまちづくり組織について」御説明させていただきます。

<資料4に基づき説明>

- ・「北区民まちづくり会議」については、来年度もこの「北区つながるプログラム」の推進を中心に委員の皆さまの御意見を頂戴していきたい。
- ・「北区市政協力委員連絡協議会」については、地域と行政をつなぐ役目を担っていただいている。市政との架け橋になっていただくということで京都市が委嘱している。非常勤の特別職の公務員である。学区ごとに代表の方を選出いただき、世話人の方を中心に開催している。
- ・平成27年度は、「北区制60周年記念実行委員会」を開催し、地域、事業者、各種団体の方など多くの方に御参画いただき連携することができた。今後、この会を終わりにするのではなく、北区のまちづくりに関わる広範な団体や様々な方々の情報交換・情報交換の場として発展的に改組し「北区未来につながる区民会議」を設置したいと考えている。中身としましては、区民の相互の交流と地域活性化を図るふれあい事業を行ったり、コミュニティラジオの問題もここで話し合いを持たせていただきたいと思う。18日の北区制60周年記念事業実行委員会の場で提案させていただきたいと思っている。
- ・「地域代表者会議」は、記念事業実行委員会の中で各学区の代表者の方にお集まりいただいた。これを組織化して、第1回の会議を平成28年の1月21日に開催し、高奥会長がこの会議の会長にご就任いただいた。この地域代表者会議を「北区未来につながる区民会議」の幹事会として位置づけ、実質的な執行機関とさせていただきたい。
- ・「みんなでつくる安心安全なまち北区推進協議会」については、「安心安全運動プログラム」の具体化を諮っていききたいと思う。
- ・「WA(わ)のこころ創生ネットワーク会議」については、「ひと・まち・しごと創生戦略」に基づき、人口減少の歯止めをかける取組や、これまでの日本人が大切にしてきた心の創生を目指す。長年の歴史の中で培われてきた精神文化、伝統文化を大切に、大学のまちという特性を活かして、「WA(わ)のこころ」に取り組んでいきたいと考えている。
- ・「健康長寿のまち京都」ということで、健康寿命を延ばしていつまでも元気に暮らしていただくための市民ぐるみ運動組織を立ち上げ、「未来につながる区民会議」とともに取組を進めていきたいと考えている。

○市川座長

「北区民つながるプログラム」が、来年度のまちづくり組織において実現を目指していただくということである。ただいまの説明に対し、御意見・御質問があれば、お願いしたい。

<意見なし>

○市川座長

これまでに、色々な御意見をいただいているので、そういった御意見を参考にして北区のまちづくりを進めていただきたいと思う。それでは、議題は全て終了したので、進行を事務局にお返しする。

○事務局

活発な御意見を賜りありがたい。今期の北区民まちづくり会議の皆様にお集まりいただくのは、最後になる。この2年間、「北区民つながるプログラム」の策定や北区制60周年記念事業の実施にあたり、多大な御協力・御支援を賜り、厚く御礼申し上げる。

最後に、委員の皆さまから御意見や御感想など頂戴できればと考えている。市川座長から順に一言ずつお願いする。

○市川座長

短い期間ではあったが、委員の皆さんから御協力いただき、無事座長の務めを果たせた。素晴らしい「北区民つながるプログラム」ができた。委員の皆さんのおかげだと思っている。また副座長にも何度もお越しいただいた。引き続き、北区のまちづくりのために御尽力をお願いしたいと思う。

○志藤副座長

2年間かけて話してきたことを基に、このプログラム「Link北区」という素敵なものができた。区民の皆さんに御披露目するのを楽しみにしている。計画は、一般に行政推進や市民活動のツールである。このプログラムに出てくる「18のプログラム」をいかに使いこなすのかということについて、行政も、住民も、大学も問われていくのだと思う。たくさんの方からの御意見やアンケートを基に作ることができた。このプログラムに関わることが喜びとなるように、進めていけたら楽しいと思う。皆さんと一緒に進めていきたいと思うので、よろしく願います。

○谷口副座長

60周年にあたる時に委員を努めさせていただき、本当によかった。これまで何度か学生とともに北区のまちを調査した。都市計画局が出している雑誌に、学生の卒業研究に手を加えて掲載させていただいた。その時の学生の同窓会が、先日あった。「あのときの卒業研究は残っているか」などと話が出た。北区のまちづくりについて調べて考えたことは、学生にとってもよい思い出になっている。会議では、大学と地域の問題を提起させていただいたつもりである。皆さんと一緒に議論ができてよかったと思う。

○委員

公募委員として参加させていただいた。一学生として中々意見が言えなかった。何をしたらいいかと悩んでいたが、会議に参加していろんな御意見やまちづくりの課題を知ることができた。委員としての役目は終わるが、委員として知った北区のいいところを個人的に広げ

ていくことはできると思うので、小さな活動を通して、北区に貢献していきたい。

○委員

「北区のつながるプログラム」を見ると、先生方や委員が出した意見がうまくまとめられている。これからの5年間、北区の憲法になると思う。事務局をはじめ、うまくまとめられたと関心している。委員として、色んな勉強をさせていただいた。せっかくできたプログラムをどのように実践していくかが、大事なテーマである。地域のコミュニティが大事な時期である。以前お話させていただいたが、北区民が顔を合せたらあいさつをするということを考えていた。区民ぐるみ運動の中にでも「北区民はあいさつしよう」ということを入れていただいたらよいと思う。

○委員

2年前、会議が始まったときには、そうそうたる先生はいらっしゃるので、上から目線のプログラムになるのかと思ったが、意に反してよい感じのプログラムになった。「具体性がない」「抽象的」という意見が出ると思うが、そこがよいのだと思う。みんなで意見を出しながら地域の活動をやっていきたいと思う。北区を良くするには、学区が良くなれないと思う。学区が中心となり、意識付けをして、地域が住民に仕掛けていかなければならないと思う。このプログラムを基本に地域の活性化に取り組んでいかなければならないと思っている。

○委員

途中で委員に就任させていただき、プログラム案が固まったところから参加させていただいたので、皆さんのご苦勞を存じ上げないが、これからまちづくりを進める一人として関わっていきたい。18のプログラムがリンクしながら地域の活性化ができればよいと思う。ちょうど私の世代が、地域において、先輩方と若い人とを仲介できる世代だと思っている。これから少しずつだが、何かお役に立てたらと思っている。

○委員

60周年という節目で委員を努めさせていただき、いい経験をさせていただいた。つながりや御縁も広がり、委員が終わった後の財産になりありがたいと思っている。委員としてアンケートを集めるなど協力をお願いすると、ねぎらっていただきうれしかった。多くの意見によって出来たこのプログラムには、たくさんのまなざしがあり、素敵なことだと思っている。委員が終わっても、北区のまちづくりの役に立つことを続けていきたいと思っている。

○委員

10年ほど前に、北青少年活動センターのボランティアと個人的に仲良くなり、地域と若い人をつなげていこうと思い、活動を始めた。佛教大学の学生「むらさきっず」と一緒に、75才以上の独居老人の居場所づくりやコーラス活動に取り組んでいる。今後の北区も高齢化・少子化は止められないと思う。北区に住みたいという話があるが、空き家は増えている。

若い人が住んでくれるような魅力のある学区にどうすればなるのかということのをこれからも引き続き考えて活動をしていきたい。

○委員

委員の皆さんの意見を聞き、京都以外の出身でも色々なことを知ることができた。私事だが、住んでいるマンションの初代自治会長をすることになった。今回こちらで勉強させていただいたことを役に立て、あらたなところでがんばりたいと思う。

○委員

区民と行政のつなぎ役を務める上で、この会議に参加させていただき色々勉強させていただいた。よい機会となったので感謝している。

○宗本副座長

60周年というタイミングで委員をさせていただき、住民の民さんのお話を聞かせていただくことができた。先ほどお話もあったが、地域活動は楽しくやっついていかないといけない。このプログラムにおいては、これまでからあったものをうまくつなぎ合わせて進めていこうというのが「Link」ということだと思う。この「Link」という言葉の持つ可能性やその意味の広がりを改めて感じる。区役所がうまくコーディネートをしなが、実現に向けて楽しく共有して誤解のない形で、住民の皆さんが自分の力でやっついていかないといけない点が大切である。このプログラムのいいところは、みんながどういうふうにするかという設定であり、住民みんなでやるのが前提になっているところである。このプログラムを進めていくと、どんなまちになるか非常に楽しみである。

○島田副座長

「Think 北区」から「Link 北区」から、そして次は、「action 北区」だと思う。つながった先で、どう行動し新しくクリエーションできるか。つながった先でのアクションがとても大切である。つながった先のアクションから、さらにまた5年間がつながっていくように総括していくことが大切だと思う。

○事務局

最後に区長からも一言、お話させていただきたい。

○区長

基本計画の後期5年間をどうするか考えよう、60周年のゴールに向けて何かまとめようという程度の事務局の話から、座長をはじめ委員のみなさまにご苦労をおかけした。心から感謝している。総じて「いいものができた」「これでまちづくりを進めて行きたい」という言葉をいただき、うれしく思う。ありがとうございました。

○事務局

本日の北区民まちづくり会議をこれで終了させていただく。長時間ありがとうございました。

<以上>